

JAICが自社導入した Online会議・商談ツール4選と 使い分けのポイント



はじめに

新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を受けて、各社でテレワーク、また商談等の業務をオンライン化されているかと思えます。

当社、株式会社ジェイックでは、社員研修、教育融合型就職支援という、“対面で人と会う、接しないと仕事にならない”事業をしておりますが、昨年より徐々にオンライン対応を進行してきました。また、4月13日より、主力事業である若手層の採用支援「就職カレッジ」は、説明会、面談、5日間の研修、面接会を完全オンライン化して提供を継続。教育研修事業においても、4月20日より管理職を対象とした継続教育「リーダーカレッジ」のオンライン提供を開始しております。

事業の中では

- － 商談・打合せ : ①顧客企業やパートナー企業・大学など主にBtoB、②社内
- － 面談 : おもに若年層の求職者・就活生など主にBoC
- － 研修 : ①若年層の求職者・就活生、②企業研修の受講者
- － セミナー : ①若年層の求職者・就活生、②企業や大学などのBtoB.

など様々なパターンの接点があり、相手の環境（ノートパソコン／スマートフォン、用意できる通信環境）なども様々です。その中で、弊社がどんなツールを導入して、どう使い分けをしているか、リアルなところをご紹介します。

当社は、Online商談・会議ツールの代理店事業を行っているわけではありませんので、ユーザーとしての立場で、当社が実施していることを共有いたします。

また、ツール導入に際して、さまざまな情報収集は行っておりますが、完ぺきな調査を行っているわけでもありません。ツール自体は類似ツールも存在します。

ただし、ここまで導入した中でセキュリティ面などは担保したうえで、

- － ツールの特徴
 - ※何が強みか、逆に、どんな制限；アプリのインストールや通信容量が生じるか、また、アカウント管理やコスト面
- － 相手の環境
 - ※相手の機体はノートパソコンもしくはスマートフォンか、その打合せをすることがどれぐらいの優先度か？
（相手にアプリインストールなどをしてもらえることが可能か？負荷がないか？）

といった視点でツールを使い分けることが非常に重要と感じております。その考え方が何かご参考になれば幸いです。

1. zoom

★ツールの特徴

ネット会議系の中では、音声の安定性が高品質。また、利用する通信容量もskypeやGmeetと比べると小さい。5人以上の会議でもお互いの顔を見ながら喋れる（Gmeetは参加者の顔表示は同時4名）。一方で、スマートフォンでの利用に際してはアプリが必要となる。また、無料アカウントでは、参加者3名以上のmeetingは1回40分までと時間制限がかかる。ただし、有料アカウントも月額2000円~と非常に安く、また月単位での契約が可能。

★当社での用途

Online研修や5日間のオンライン講義、集団面接会、企業や新卒向けのウェビナー

2. SOKUMEN

★サービスの特徴

zoomと異なり、相手がスマートフォンでもアカウント登録やアプリのダウンロードが不要であり、送付されたURLをクリックしただけでOnlineでの打ち合わせが可能。利用する通信容量もzoomと同じように比較的小さい。

★当社での用途

新規の登録者（若年層の求職者）との面談、少人数での説明会（補足）新卒の就活生は、新型コロナウイルスの影響で各社選考のオンライン化が進む中でzoom導入率も高く、アプリダウンロードが負荷になりづらいと判断しています。一方で、それ以外の求職者層にはアプリダウンロードは負荷となりますので、SOKUMENを主で利用しています。

3. Gmeet

★サービスの特徴

当社の場合、G Suiteを基盤としていることから、全社員が標準で使える、またGoogleカレンダーと連携するGmeetは、社内mtgにおいては、使い勝手が良いツールです。一方で、顔が見れるのは同時4名まで、ブラウザが「Google Chrome」もしくは「Mozilla Firefox」の最新バージョンが必要という制限があります。その点で、社外向けに広く展開すると、相手のブラウザ・ITリテラシーによってトラブルが生じます。

★当社での用途

主には社内での少人数ミーティング

4. ベルフェイス

★サービスの特徴

音声は「電話」、映像と画面共有を「ネット」と、敢えて伝達手段を切り分けているのが特徴です。切り分けていることから、①音声は電話のため、音質がクリアで途切れる心配もない、②映像や画面共有もクリア、③音声担保されているので、最悪の場合も音声+メールでの資料共有等で継続可能、④アプリ等のダウンロードが不要、というメリットがあります。一方で、「電話+画面」を使うので、自分も相手も、電話+パソコンでの利用が主となります。また、電話での接続ですので、1対1での利用が前提です（zoomやGmeetと同じように多拠点接続もできますが、その場合は、音声も画面もネット経由になるため、普通のネット会議と同じ品質になる）

★当社での用途

主に企業との商談

ここまでご紹介したツール類で、対面業務は置き換えをしておりますが、テレワーク、Onlineでのサービス提供となる中で、不足する部分を補うため、以下のツールも並行して利用しています。

5. Remo（トライアル中）

★サービスの特徴

zoomなどと同じweb会議システムですが、大きな特徴は「バーチャル会場（テーブル）」があることです。6人まで座れるバーチャルのテーブルがあり、参加するユーザは自由に机を移動できます。各机で、机に座っているユーザ同士でのonline会議（会話や画面共有）をすることが可能です。

★当社での用途

テレワークにおける雑談の創出。

（補足）カメラをオフにした状態（通信容量を削減するため）で、zoomなど他の会議に入っていない間は、Remoに常駐。“ちょっとした用事”がある時には、“相手の机に入って声をかける”という使い方です。

6. 非同期アプリ

LINE&LINE WORKS、hangout、slack、chatworkなど

ここまでご紹介したのはすべて同期型（リアルタイムでの双方向性）のツールです。オンラインでサービス提供する、業務を行う上で、テキスト型・非同期のコミュニケーションツール（いわゆるチャットツール）も併用しています。

チャットツールも、

- － 社内のみでのクローズな利用 or パートナー企業や顧客とのコミュニケーション
- － 個人やチームでのタスク管理が出来るか？
- － 1つのチャンネル内でスレッド型でいくつもの話題を並行処理できるか？
- － アプリの浸透度

などで特徴がありますので、必要なセキュリティレベルや利用状況に応じて、ツールを選定することが重要です。

ここまでご覧いただき、ありがとうございます。何かご参考になることがあれば幸いです。当社では「web化119番」として、採用活動や社員教育のonline化に関する相談に無償で対応しています。

何かご質問等ございましたら、

info@jaic-g.com

までお気軽にお問い合わせください。

